

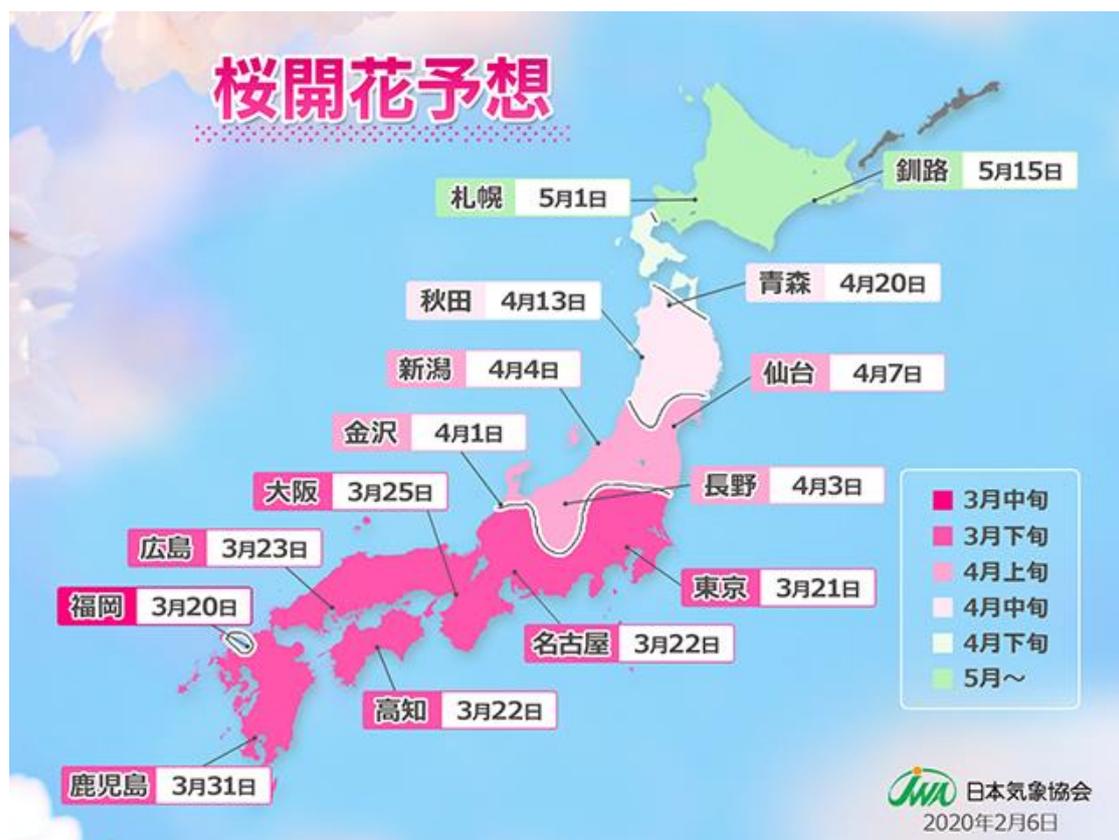
【報道関係各位】

2020年2月6日
一般財団法人 日本気象協会

2020年桜開花予想（第1回） 全国的に平年より早く、開花トップは福岡で3月20日！

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：長田 太、以下「日本気象協会」）は、日本全国49地点の桜の開花予想（第1回）を、2020年2月6日（木）に発表します。

2020年開花予想前線図



2020年開花予想日(主な地点)

	地点	開花予想日	開花予想傾向	平年開花日	昨年(2019年)開花日
鹿児島県	鹿児島市	3月31日	遅い	3月26日	3月25日
福岡県	福岡市	3月20日	早い	3月23日	3月21日
高知県	高知市	3月22日	平年並	3月22日	3月22日
広島県	広島市	3月23日	早い	3月27日	3月22日
大阪府	大阪市	3月25日	早い	3月28日	3月27日
愛知県	名古屋市	3月22日	早い	3月26日	3月22日
東京都	千代田区	3月21日	早い	3月26日	3月21日
長野県	長野市	4月3日	かなり早い	4月13日	4月13日
新潟県	新潟市	4月4日	早い	4月9日	4月5日
石川県	金沢市	4月1日	早い	4月4日	4月1日
宮城県	仙台市	4月7日	早い	4月11日	4月5日
秋田県	秋田市	4月13日	早い	4月18日	4月16日



青森県	青森市	4月20日	早い	4月24日	4月18日
北海道	札幌市	5月1日	平年並	5月3日	4月24日
北海道	釧路市	5月15日	平年並	5月17日	5月9日

開花の傾向

2020年の桜の開花は、全国的に平年より早いでしょう。昨年と比較すると、同じくらいのところが多いですが、北海道では記録的に早く開花した昨年に比べると、今年は遅い見込みです。

桜の開花は、3月20日に福岡からスタートする見込みです。21日に東京で開花、22日には高知、松山、名古屋、岐阜、横浜で開花するでしょう。3月末までには、西日本から東日本にかけての広い範囲で開花となりそうです。長野や北陸では4月上旬に開花するところが多い見込みです。東北では4月上旬から中旬に開花するところが多いでしょう。4月下旬には、桜前線は津軽海峡を渡って、4月27日に函館で開花する見込みです。

この冬(12月～1月)は、西・東日本を中心に気温がかなり高くなりました。日本海側では降雪量が記録的に少なくなっており、暖冬傾向が続いています。

今後も寒気の流れ込みは一時的で、東日本の日本海側や北日本の日本海側の降水量は、平年並みか、少ないでしょう。桜の花芽の休眠打破*は、やや遅れる傾向にありますが、2月以降は全国的に気温が平年並みか高く経過し、春の訪れが早まると予想されるため、開花予想日は全国的に平年より早くなりそうです。

※休眠打破:前年の夏に形成され休眠に入った花芽が、冬になり一定期間の低温にさらされて目覚めること

全49地点の桜の開花予想日は、日本気象協会が運営する天気予報専門メディア『tenki.jp(てんきじえーぴー)』桜の開花予想ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。

【言葉の説明】

平年:1981～2010年の平均値

かなり早い	:平年よりも7日以上早い
早い	:平年よりも3日から6日早い
平年並	:平年との差が2日以内
遅い	:平年よりも3日から6日遅い
かなり遅い	:平年よりも7日以上遅い

以上



参考資料

桜開花予想に関するよくあるご質問

Q1: 桜開花予想の発表のスケジュールは？

A1: 以下の日程を予定しています。2月中は開花予想日のみを発表し、3月以降は開花予想日と満開予想日を発表します。

第1回 2月6日(木)	第2回 2月20日(木)	第3回 3月5日(木)	第4回 3月12日(木)
第5回 3月19日(木)	第6回 3月26日(木)	第7回 4月2日(木)	第8回 4月16日(木)

Q2: 開花日・満開日の基準は？

A2: 気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で5～6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3: 予想する地点数は？

A3: 2月中は49地点、3月以降は全国で90地点の予想を発表します。予想地点90地点は、各地気象台が観測する標本木53地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる37地点となります。

Q4: 日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4: 花芽(はなめ)の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

日本気象協会は2007年から桜の開花予想を実施しており、今年で14年目の取り組みです。

Q5: 開花予想に使うデータは？

A5: 以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。